

9月は「がん征圧月間」です

昭和35年から毎年9月を「がん征

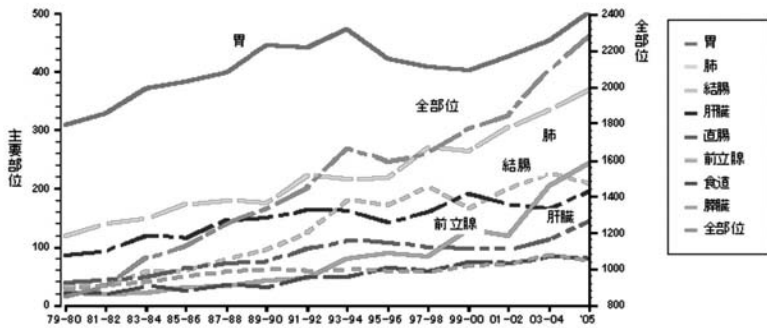
圧月間」と定め、がんとその予防についての正しい知識の徹底と早期発見・早期治療の普及に全国的に取り組んでいます。日本人のがんで亡くなる方は年間34万人にも達し死亡原因の第一位を占めています。また、3人に1人はがんになると言われています。今は元気で、将来はがんになる可能性があると考えて、早めに対策を立てておくことが重要です。

事前の対策の一つが、検診を受けることです。がんはある程度進行するまで、ほとんど自覚症状が出てきません。早期発見するためには、定期的な検診を受けることが大切です。もう一つの対策は、がんについての正しい知識を身につけることです。どんな治療法があるのかなどをチェックしておく、いざというときに慌てないで済みます。がんについての情報は、「国立がんセンター」や「癌研究会」などのホームページに詳しく掲載されています。

鳥取県のがん罹患数の年次推移

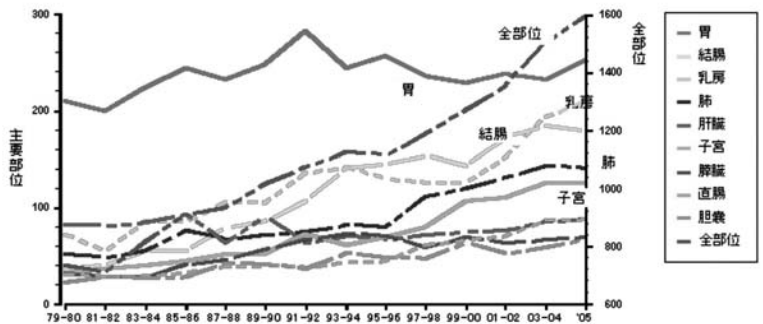
鳥取県におけるがん罹患数は、全国同様年々増加傾向にあり、平成17年のがん罹患総数は3876件(男2281件、女1595件)です。主要部位別では、男では肺、前立腺、女では乳房において顕著な増加傾向が見られます。

鳥取県における部位別がん罹患数の年次推移(男)



出典：鳥取県がん登録

鳥取県における部位別がん罹患数の年次推移(女)



出典：鳥取県がん登録

南部町のがん検診受診率

平成19年度南部町のがん検診受診率を左記に示します。

	総数	男	女
胃がん (40歳以上)	24.9	22.0	26.6
肺がん (40歳以上)	29.1	27.3	30.2
大腸がん (40歳以上)	25.7	22.6	27.6
乳がん (40歳以上)			27.8
子宮がん (20歳以上)			25.4

出典：厚生労働省調べ

一人ひとりができること

3人に1人ががん罹患すると言われる中で、がんによる死亡者は高齢化とともに今後さらに増加していくと推測されます。

がんの医療水準は年々向上し、早期発見すれば5年生存率は改善してきているにもかかわらず、がん検診受診率は低迷している現状です。

町民一人ひとりが、禁煙、食生活、運動に重点を置いた生活習慣の改善や、がんの早期発見のためのがん検診を受けるなど、健康の自己管理を行い、がん予防や早期発見に努めることが大切になります。

町では胃、大腸、肺、子宮、乳がん検診を実施しています。今年度まだ受診されていない方は、ぜひ受診してがんの早期発見に努めましょう。